

令和6年度 草加市立青柳中学校 第1学年 家庭科シラバス

教科の学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実践に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○評価の観点・資料・評定

【評価の観点】

- ① 知識・理解
- ② 思考・判断・表現
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

【評価の資料】

- ・授業への取り組む姿勢（授業態度、発表、提出物、出席、服装・身支度、教え合い）
- ・製作物、調理器具の使い方、調理実習で使う切り方、実習の技術
- ・定期テスト

【評定】

- ・観点別評価を総合して、学期ごとに5段階で評定します。
- ・1年間通しての学年評定も3学期に行います。
- ・各評価は技術分野と合わせて一つの評価とします。

○教科の学習の方法

- ・実生活と照らし合わせ、自分のこととして考えましょう。
- ・実習等では、安全に気をつけて丁寧に進めることを目標としましょう。
- ・授業で習った知識や技能を、日常生活のなかで積極的に実践してみましょう。

	学習内容	学習のねらい
前期	「家庭科ガイダンス」	・3年間の家庭科学習の見通しを立てる
	「家族・家庭と子どもの成長」 1. 私の成長と家族・地域 2. 私たちと家族、家庭と地域	・中学生になるまでの自分の成長と家族や周りの人々との関わりについて理解する。 ・家庭や家族の基本的な機能について理解する。 ・家庭生活と地域の人々との関わりについて理解する。
	「衣生活・住生活と自立」 1. 日常着の活用	・目的に応じた衣服の着用や自分に必要な衣服の選択ができるようにする。
	2. 日常着の手入れ 3. 持続可能な社会をつくる 4. 布を用いた物の製作	・衣服材料の性質の違いを理解し、衣服の汚れ方に応じた手入れと適切な補修ができるようにする。 ・環境に配慮した資源を大切にする衣生活のあり方を考える。 ・衣服の補修技術を利用した小物作りができるようにする。

令和 6 年度 草加市立青柳中学校 第 2 学年 家庭科シラバス

○教科の学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実践に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○評価の観点・資料・評定

【評価の観点】

- ④ 知識・理解
- ⑤ 思考・判断・表現
- ⑥ 主体的に学習に取り組む態度

【評価の資料】

- ・授業への取り組む姿勢（授業態度、発表、提出物、出席、服装・身支度、教え合い）
- ・製作物、調理器具の使い方、調理実習で使う切り方、実習の技術
- ・定期テスト

【評定】

- ・観点別評価を総合して、学期ごとに5段階で評定します。
- ・1年間通しての学年評定も3学期に行います。
- ・各評価は技術分野と合わせて一つの評価とします。

○教科の学習の方法

- ・実生活と照らし合わせ、自分のこととして考えましょう。
- ・実習等では、安全に気をつけて丁寧に進めることを目標としましょう。
- ・授業で習った知識や技能を、日常生活のなかで積極的に実践してみましょう。

	学習内容	学習のねらい
後期	・「中学生に必要な栄養素を知る」	・中学生に必要な栄養の特徴について理解させる。
	・「健康によい食習慣の工夫を考える」	・今までの学習を活用し、よりよい食習慣の工夫についてかんがえさせる。
	・「中学生の栄養と食品群別摂取量を知る」	・食品群を用いて、中学生に必要な食品の種類と概要について理解させる。
	・「1日分の献立を工夫する」	・中学生に必要な栄養素量をみたす1日分の献立作成の方法について理解させる。
	・「用途に応じた食品の選択をする」	・生鮮食品と加工食品の特徴を捉え、用途に応じた選択。
	・「調理方法による特徴を比較」	・調理用具や食品の扱い方を知り、調理手順を理解する。
	・「だしを使った調理」	・野菜の特徴を理解させ、調理させる。
	・「魚の調理」	・魚の特徴を理解させ、調理させる。
	・「肉の調理」	・肉の特徴を理解させ、調理させる。
	・「家族のための行事食を工夫しよう」	・家族の食習慣について課題を調査し、解決するために今までの学習を活用し、献立を工夫させる
5. 住まいのはたらき	・住まいの基本的なはたらきを理解し、住まいの空間について知る。	
6. 安全な住まい	・家庭内での事故や災害時などの備えについて知る。	

令和6年度 草加市立青柳中学校 第3学年 家庭科シラバス

○教科の学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実践に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○評価の観点・資料・評定

【評価の観点】

- ⑦ 知識・理解
- ⑧ 思考・判断・表現
- ⑨ 主体的に学習に取り組む態度

【評価の資料】

- ・授業への取り組む姿勢（授業態度、発表、提出物、出席、服装・身支度、教え合い）
- ・製作物、調理器具の使い方、調理実習で使う切り方、実習の技術
- ・定期テスト

【評定】

- ・観点別評価を総合して、学期ごとに5段階で評定します。
- ・1年間通しての学年評定も3学期に行います。
- ・各評価は技術分野と合わせて一つの評価とします。

○教科の学習の方法

- ・実生活と照らし合わせ、自分のこととして考えましょう。
- ・実習等では、安全に気をつけて丁寧に進めることを目標としましょう。
- ・授業で習った知識や技能を、日常生活のなかで積極的に実践してみましょう。

	学習内容	学習のねらい
一学期	・「幼児の心身の発達」 ・「幼児の生活と遊び」	・幼児の心身の発達の特徴や幼児期における生活習慣の形成の重要性について理解する。 ・幼児の心身の発達と生活の特徴、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。 ・幼児の遊びの大切さについて理解する。 ・幼児のためのおもちゃを工夫し、製作することができる。
二学期	・「幼児とのふれ合い」 ・私たちと家族、家庭と地域 ・これからのわたしと家族	・幼児と触れ合うなどの活動を通し、幼児への関心を深め、かわり方を工夫する。 ・家庭や家族の基本的な機能について理解する。 ・家庭生活と地域の人々との関わりについて理解する。
三学期	・「消費生活」	・消費生活について理解する。 ・支払い方法の特徴を理解し、利点と問題点を理解する。 ・消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者を目指す。